

講義名	空間市場分析特論			授業形態	
担当教員	三谷 哲雄 / 上田 真由美 / 岸野 啓一			開講期・曜日・時限	前期 水曜日 2時限
	単位数	0	履修開始年次	1年生	ナンバリング・コード

主題と概要

注意
PDFファイルでは全ての内容が表示されない場合があります。必ずRYUKA Portalから参照できるシラバスのWebページを確認してください。
本シラバス内に記載している「キャンパス クロス」は、本学で2023年度から導入(予定)される新しい学修支援システムの名称です。「キャンパス クロス」の概要や使い方は、教務部に問合せください。
この科目は、「対面のみ(で実施する)」科目です。詳細は、「履修にあたっての注意・助言他」に記載していますので必ず確認してください。
「備考」には、受講上のアドバイスを記載しています。必ず確認してください。

本科目は、3つのパートで構成する。

(1) パート1 (上田) 「位置情報」

「位置情報」というものがビジネスに活かされるようになってきた。IoTと呼ばれる仕組みにより、様々なモノがインターネットにつながり、その状態をリアルタイムに把握することが可能となったことから、新しいビジネスが次々に登場している。ここでは、位置情報を追跡(トラッキング)することで実現する社会、位置情報のトラッキングを実現する技術について議論する。

(2) パート2 (岸野) 「観光地交通計画」

到達目標

受講生は、本科目で紹介される上記の3テーマに関して理解を深め、空間市場に対する自らの意見を提案できるようになる。

提出課題

(1) パート1 (上田)

位置情報のトラッキングを活用するサービスについて、講義で取り上げなかったサービスを見つけ出し、その特徴をまとめたレポート作成および発表を行う。
講義で取り上げなかった位置情報のトラッキングを活用するサービスを見つけ出し、その特徴をまとめたレポート作成および発表を行う。

(2) パート2 (岸野)

観光地の渋滞対策に関する事例について、その特徴や効果などを考察する課題をレポートとして課す。

(3) パート3 (三谷)

講義中に紹介した解析ツールと地域データを使って地域情報解析を行い、その結果をレポートにまとめ、提出するとともに、授業中にその内容を報告することを課題として課す。

課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバックの方法

各教員から指示がある。

評価の基準

各教員ごとに33.3(100/3)点満点で評価し、それらの合計点数が評価点となる。各パートでは、授業参加度と課題レポート評価の合計で採点される。各教員とも、成績は、授業参加度に30%、課題レポートに70%の配分となる。それぞれの課題レポートにより達成度を評価する。

履修にあたっての注意・助言他

(0) 授業の実施方法

1) 実施形態
この科目は、「対面のみ(で実施する)」科目です。途中から対面とオンデマンドの並行開講に移行することはありません。全ての授業を対面で実施します。理由は、オンライン形式の授業では、到達目標を達成することが非常に困難なためです。

2) 学校感染症の中で特に新型コロナウイルス感染症による影響で一時的に通学が困難となった場合
当該学生には、通学停止期間中の対面授業の講義資料の配布、授業動画の提供、通学停止期間中に提出期限が設定された課題の別途提出許可、要望に応じて補習授業の提供、などを必要に応じて実施します。詳細は、該当する授業日の担当教員の指示に従ってください。

教科書

.使用しない。

参考図書

.なし。

その他

各教員から適宜、指示がある。

授業計画

01-05(5回) [上田]

- 1)位置情報とは
- 2)位置情報の追跡(モノの見守り・人の見守り)
- 3)位置情報の追跡(移動を追う)
- 4)位置情報を追跡するための技術
- 5)レポート提出・ディスカッション

06-10(5回) [岸野]

- 1) 観光地の交通特性
- 2) 観光地の交通問題
- 3) 観光地交通計画の考え方や手法
- 4) 観光地交通計画の事例
- 5) レポート提出・ディスカッション

11-15(5回) [三谷]

- 1) 講義概要の説明と演習準備
- 2) 解析ツールの解説と操作練習
- 3) 演習用の地域データの解説と解析テーマの例の紹介
- 4) 演習課題のレポート作成に向けた演習作業
- 5) レポート提出・ディスカッション

注意
授業では、データファイルを配布しますので、USBメモリを準備しておいてください。
授業ならびに演習課題の中でWindows用デスクトップ版Excelを利用します。
利用できる環境を整えておいてください。
環境がない場合は、学内のPC演習室等を利用してください。

授業形態(アクティブ・ラーニング)

ア:PBL(課題解決型学習)	イ:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
ウ:ディスカッション、ディベート	エ:グループワーク
オ:プレゼンテーション	カ:実習、フィールドワーク
ク:その他(A型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)	

教員により異なる。

準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習及び復習の時間は、それぞれの担当教員ごとに、1)~4)の講義内容に関する事前確認や下調べ、講義資料の事後確認に毎回4時間程度、最終回のレポート作成に4時間程度を目安とする

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

卒業認定・学位授与の方針(OP:ディプロマ・ポリシー)に示されている要件に対する当該授業科目の寄与の程度を行頭[]内に4段階(0-3)に分けて記載する。各段階の意味は、教務部の指示に従った。

[3] 1 理論的・実証的な課題を研究するために必要な科学的的方法論を身につけていること。

[1] 2 研究者として、流通科学諸分野における豊かな学識と研究能力を身につけていること、または高度専門職人として、より実践的・課題解決的な能力を身につけていること。

[0] 3 特定の流通科学分野において、専門的な研究を行い、修士論文あるいは課題研究の成果を完成させていること。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

教員ごとに使用機材は、異なる。

実務経験の有無及び活用

教員ごとに異なる。

備考

受講上のアドバイス

(1) 講義に関する情報はRYUKA Portalの4時間制やキャンパス クロス(RYUKA Portalからもアクセス可能)で確認すること。
受講生の皆さんへの連絡(講義に関する案内、講義資料の配布、レポート課題の指示など)は、授業中だけでなく、適宜、RYUKA Portalやキャンパス クロスでも行います。講義資料の配布ページには、掲載期間があります。掲載期間を過ぎたら、閲覧やファイルのダウンロードができなくなります。連絡を受けたら速やかにダウンロードし、自分のPCやスマホなどの端末に必ず保存してください。レポート課題には、提出期限があります。また、レポートを提出した後は、その提出状況を必ず確認してください。

(2) 講義資料